日本における少子化の現状・要因と少子化対策の検討(要旨)

少子高齢化は、多くの人が知る社会問題である一方で、日本の少子高齢化について、その現状や要因まで知っている人は少ないと思われるテーマでもある。そこで本論文では、少子高齢化の中でも特に少子化について注目し、少子化の現状、問題点、要因を明らかにした。そして、現在行われている日本の少子化対策が、少子化の現状や要因に即したものであるかということを検討した。

まず、日本の少子化の現状と問題点ついて述べる。日本の合計特殊出生率は、1974 年に置換水準を下回り、それ以降も低下が続いている状況である。また、2022 年時点での日本の合計特殊出生率は 1.26 であり、置換水準の 2.07 を大きく下回る。この状況から日本の少子化は、重大な問題であると考えられる。そして、少子化の問題点としては、少子化に伴う人口減少による、労働力不足や経済成長の鈍化、希望している子どもの数をもつことができない人がいること、家族がいることによって受けられるサービスを受けられないことの 3 つが挙げられる。しかし、1 つ目の少子化に伴う人口減少による、労働力不足や経済成長の鈍化については、労働生産性を向上させることで回避も可能であると考えられる。

次に、少子化の要因について述べる。少子化の要因は、2 つある。1 つ目は、夫婦から生まれる子どもの数が減少していることである。これには 3 つの要因がある。第 1 に、子育てや教育にお金がかかることである。私立学校や大学への通学者が増えていることから、子どもの教育費の平均額は増加していると考えられる。第 2 にセックスレスである。近年セックスレスの夫婦が増加しており、これが第 2 子以降の出生意欲に大きく関連していることが明らかになっている。第 3 に仕事と子育てを両立できる環境が整っていないことである。これは特に、パートや派遣の女性に当てはまると考えられる。

2 つ目の少子化の要因は、未婚化である。未婚化にも 3 つの要因がある。第 1 にパラサイト・シングルの誕生と増加である。日本では、パラサイト・シングルと呼ばれる学卒後も親と同居する未婚者が多く、彼らの存在が未婚化を進めていると考えられる。第 2 に結婚や出産への漠然とした不安感である。このような不安感は、メディアの記事によって煽られている部分があると考えられる。第 3 に現代の未婚者は、恋愛に対して積極性が欠けているということである。現代の未婚者は、恋愛に対して消極的である一方で、結婚相手に求める条件が多いため、これが結婚を遠ざけていると考えられる。

以上の少子化の現状、問題点、要因から、現在日本で行われている少子化対策を検討する。『少子化社会対策大綱』では、子育て支援と結婚支援の両方が示されていることから、少子化の 2 つの要因をカバーしており、一定の肯定的な評価ができる。しかし、子育て支援に重きが置かれ、結婚支援は希薄である点において、改善の余地があると考えられる。少子化を深刻化させる要因は、実に多様であり、時代によって変わる部分や、日本特有の部分があるため、少子化を改善してくためには、時代に合わせた分析や対策が今後も求められる。